

第2学年 「かけざん(3)(7時間)」評価資料

単元目標	
知識及び技能	乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成したり、被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解したりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	九九表を観察して、乗法についての性質を見出したり、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えたりできる。
学びに向かう力、人間性等	乗法のきまりや、九九表を活用して、楽しいゲームを工夫して楽しんだり身近な問題に生かそうとしたりする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
☆ 乗法九九の表における数量の関係に着目する。 ・ 被乗数と乗数、積の関係の増え方(乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える) ・ 交換法則(乗数と被乗数を交換しても答えは同じになる) ・ 九九表における数の並び方(きまり) ☆ 計算に関して成り立つ性質(きまり)を論理的に考える(帰納的な考え)。 ☆ 日常生活の場面を、乗法のきまりや分ける、全体と部分・部分と部分などの考え方を基に式や図を用いて考える。	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/7)	九九のよさに気づき、九九のきまりや特徴を見出している。
【子供の表現例】 ○ 4の段は、かける数が1増えると、答えが4ずつ増えるよ。 ○ どの段もかけられる数の分だけ増えるきまりがあるよ。 ○ 九九表にでてくる同じ数は向かい合っているよ。 ○ 2の段と、3の段の答えをたすと、5の段の答えになるよ。 ○ 3×5 と 5×3 の答えは同じになるよ。数字を入れ替えても答えは同じだ。	【指導の手立て】 ○ 被乗数分増えていることに気付かせるために「かける数が1増えると答えはどうなっているかな」、「どの段にも言えるきまりはなんだろう。」と発問する。 ○ 同じ数が向かい合っていることに気付かせるために、同じ数の答えを同じ色ペンで囲む。 ○ 2の段の答え+3の段の答え=5の段の答えに気付かせるために、2、3、5の段だけが書かれた表を提示する。
重点とする評価の観点(3/7)	乗法九九を想起し、場の状況を考えながら式や図を用いて表現し、工夫して考えている。
【子供の表現例】 ○ チョコレートの並び方でも、かけ算を使ってできそうだ。 ○ 6のまとまりと3のまとまりをみつけたよ。最後にたせばチョコレートの数が分かるぞ。 ○ だいきさんの考えは、全部のマスの中から、食べてしまった部分を引いているよ。同じ数のまとまりを見つけられたら、かけ算を使って全体の数を求められるよ。たし算やひき算もいっしょにつかえるね。	【指導の手立て】 ○ 複合的に並んだチョコレートをかけ算を使って求めるために、数のまとまりに着目させ、色鉛筆で囲ませる。 ○ 全体から部分を引く考えに気付かせるために、式を示し、この式が図のどこを示しているのか話し合わせる。 ○ チョコレートの問題から、考え方の強雨通店を見つけ、簡単にまとめる。座席の問題を示し、その考えを使って課題を解決する。
重点とする評価の観点(4/7)	簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりを基に考えている。
【子供の表現例】 ○ 3×9 まではできるから、 3×10 からは、前の答えに3ずつ足していけばいいぞ。 ○ 3×5 と 3×5 分けて、最後に足せば答えが出るぞ。	【指導の手立て】 ○ 同じ数ずつ増えるというきまりを想起させるために、かけ算のきまりを算数コーナーに掲示する。 ○ 既習事項と関連付けるために、「かけ算九九表で見つけたきまりが使えないかな」と発問したり、見つけたきまりを掲示したりする。
反省	